

# 施策評価シート（平成26年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期プラン	政策No.	3-2	政策名	学校教育の充実	政策の 目指す姿	夢と希望を持ち、たくましくいきいきと育っています	施策 主管課	小中学校課	施策主管 課長名	菅野 広紀
	施策No.	4	施策名	教育環境の充実	施策の 目指す姿	適正で安全な施設環境が整い、家庭・地域と連携した学校教育が行われています	関係課名			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育や保護者の価値観が多様化している状況のなか、学校と家庭、地域が一体となって子どものためにより効果的な教育を行うための、相互の信頼関係が希薄になっています。</li> <li>・児童生徒の数は、平成18年の8,862名から平成25年の8,040名と減少しており、小規模校の出現や複式学級化がみられます。</li> <li>・近年、夏の時期は猛暑の年もあり、暑さに対する児童生徒の健康管理が懸念されています。また、生活様式の変化に伴い、家庭で洋式トイレが普及しているなか、学校の和式トイレに慣れていない生徒が見られます。</li> <li>・学校施設においては、老朽化の進行が見られます。</li> <li>・市内の私立学校では活力と特色ある学校運営が行われています。</li> </ul>								

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取り組み実績

<p>(1)地域に開かれた学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の安全指導体制の強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガードリーダーによる巡回指導、小中学校の巡回指導及び評価、スクールガード養成講習会の実施</li> </ul> </li> <li>○教育活動の積極的な公開</li> <li>○家庭、地域との協働による学校運営の推進             <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や地域と「まなびフェスト」を共有し、協働して目標達成に向けた取り組みを展開</li> </ul> </li> <li>○家庭、地域の教育力向上のための支援</li> </ul> <p>(2)教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○少子化による児童生徒減少に対応した学区編成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童生徒数の推移と今後の見通し」という資料を地域の代表者等に配布</li> </ul> </li> <li>○私立高校の振興に対する支援             <ul style="list-style-type: none"> <li>・私立高校の運営に関する補助金交付</li> </ul> </li> <li>○安全安心で快適な学習環境の計画的な整備             <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎等維持補修工事</li> </ul> </li> </ul>
---

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値 区分	H23	H24	H25 (基準年度)	H26	H27	H28
地域との協働による教育活動に取り組んでいる学校の割合	地域との協働による教育活動に取り組んでいる学校の状況を示す指標であり、開かれた学校づくりの推進状況を測ることができる。	「地域の方や保護者と協働した教育活動を実施していますか」という学校アンケートで肯定的な回答をした割合	%	目標値				96.7	100.0	100.0
				実績値	—	90.0	93.3	93.3		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<p>■成果指標「地域との協働による教育活動に取り組んでいる学校の割合」・・・【達成度 b】</p> <p>各校では、まなびフェストが定着し、具体的な数値目標を周知するとともに、取り組みの様子や学校アンケートの結果等を積極的に公開している。しかし、市教委から各校へ地域教育力を教育課程の中に位置づけることの説明が不足していた。</p>

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名	担当課	施策への貢献度	
	事業内容(実績)		直結度	成果
1	小中学校学区再編成等調査事業	教育企画課	C	C
	「児童生徒数の推移と今後の見通し」という資料を地域代表者等に配布			
2	私立高校振興事業	教育企画課	C	C
	私立高校の運営に対する補助金交付(3,240千円)			
3	小学校施設維持事業	教育企画課	A	B
	学校施設要望等による修繕(修繕学校数:19校)			
4	中学校施設維持事業	教育企画課	A	B
	学校施設要望等による修繕(修繕学校数:11校)			
5	湯口中学校校舎改築事業	教育企画課	A	C
	地質調査、実施設計(校舎等)(H26→27繰越)、屋外環境整備実施設計			
6	大迫中学校校舎改築事業	教育企画課	A	C
	用地・現況測量			
7	学校安全確保事業	小中学校課	A	A
	スクールガードリーダーによる巡回指導(実施回数:169回) スクールガード養成講習会の実施(開催回数:3回)			

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

(新たに取り組むべき事業はないか)

#### 6 施策の総合的な評価

(課題)

・家庭や地域と「まなびフェスト」を共有し、協働して目標達成に向けた取り組みを展開しているが、「学校関係者評価」については実施されていない。学校関係者評価は、学校・家庭・地域が学校の現状と課題について理解を深め、相互の連携を深めるものであることから、評価の在り方や構成員及び実施時期等を研究する必要がある。

・少子化の進行に歯止めがかからない状況にあり、子どもたちに発達段階に応じた適切な教育環境を提供していくための方策を構築する必要が高まっている。

(今後の方向性)

・「学校関係者評価」モデル校を指定し、その成果と課題と踏まえて、今後の家庭・地域との協働による学校運営の在り方について検討したい。  
・小中学校のみならず保育園・幼稚園について、その適正規模を検証し、学区再編等に関する基本方針を策定するため、平成27年度に有識者からの意見聴取、平成28年度に中学校学区単位での住民勉強会を実施するなど、市民の意見を聞き取りながら慎重に検討を進めていく。